



裁断の効率を高める自動裁断機

試作品づくりの積み重ねで 新商品を世に送り出す縫製工場

北次 株式会社

事業内容と沿革

寝具製造から雑貨小物専門の 縫製工場へ

昭和30年、現社長の祖父にあたる北次長四郎氏が勤めていた縫製工場での知識を生かし創業。寝具のマットレス普及に伴いカバー生産に追われ、寝具関連のピロケースやクッションカバーなどの製造で成長した。昭和40年代からは寝具製造が海外シフトし縫製の仕事も減少してきた。このため寝具関連だけでなくエプロンやウォールポケットなどインテリア雑貨の生産も行うようになった。ただ寝具に限らず繊維製品の量産は海外で行う傾向が強まり、国内に残る仕事は小ロット、短納期、高品質なものに限定されるようになった。そこで小ロット、多品種の縫製をこなせる工場としての機能を高めていった。昭和60年、現社長の父、北次泰男氏が2代目社長に就任。その後、自社の企画担当者が考えたオリジナル製品の販売も始めた。服飾雑貨やインテリア雑貨などの企画商品を手がけ、展示会にも出展して提案力を高めた。さらにホームページ「布もの工房」を開設し直接コミュニケーションをとれる利点を活かして新規顧客を開拓している。平成22年には3代目社長に北次孝得氏が就任し、自動裁断機など新設備も導入しながら生産性、品質を高め、オリジナル商品の開発にも取り組んでいる。

強み

小ロットへの特化で、 顧客の新商品開発の力に

特定大手企業の下請けではなく、取引先が1000社以上と分散していることが強み。さまざまな注文に応じてきたことで、縫製技術や製品の幅が広がった。バブル崩壊以降、繊維製品の製造、特に縫製の仕事は海外にシフトし、国内市場には小ロットのものだけが残った。北次孝得社長が「幸か不幸か小ロットに特化せざるを得なかった」と話すように、これまでの歴史の中で取引先を絞り込めなかったことが、結果的に会社の実力を高めることになった。縫製の受注は試作品の製作から始まる。試作品づくりには図面がなく、一から製作する必要があるため時間と手間がかかる。長年のノウハウでイラストから型紙を起こすことも可能になった。試作品の製作数は年間1000個以上に及び、試作したものほとんどは量産化され新商品として市場に流通する。他社では断るような難しい試作品の注文でも受けてきた積み重ねで多くの取引先から信頼を得て、実際の受注につなげている。

単に縫製だけを請け負うのではなく、試作品製作から裁断・縫製・仕上げ二次加工、検品まで一貫して行える体制を構築していることも縫製工場ではあまり類を見ない特徴となっている。



社員が力を合わせて生産性向上



現場改善活動の進捗を確認



仕事になるエプロン



キッチンパラソル



通園グッズ

- 企画提案
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- 海外対応

カドマイスターの取り組み

5S活動、自動設備導入で 作業効率向上

職場改善のために5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を展開している。始業時10分間の清掃活動を毎日行うに加え、月1回2時間のグループ活動では部署ごとにテーマを決め、無駄をなくするための活動を行う。結果は5S委員が審査し、上位2チームを月間賞として表彰する。例えば使うかどうかわからない余った材料を思い切って処分し、収納スペースを空けることで、材料を探す時間を削減でき、作業効率が上がったという。IT化や機械化による生産性・品質の向上にも積極的に取り組む。仕様書や見積書などの資料をデータベースで一括管理し、全部署にタブレット端末を配置して、誰でも簡単に資料が取り出せるようにしている。型紙作成をスピーディーに行えるアパレルCAD、CADデータから裁断を自動で行う自動裁断機、プログラムミシン、折れた針などが製品に混入していないかを調べる検針機などの設備を導入している。

今後の展開

オリジナル商品の 開発、販売を拡大

小ロット多品種の注文を多数こなし、利益が出せる体制づくりが進んできた今、オリジナル製品の拡大を見据えている。現在、オリジナル製品の構成比は約10%にすぎないが、北次社長は「将来は30%まで引き上げたい」と話す。顧客からの注文に応えるOEM(相手先ブランド生産)事業が優先されるため、オリジナル製品の開発と製造はどうしても後回しになってしまう。それでも開発担当部署だけでなく、社内全体から新商品のアイデアを集め、市場調査を進めている。オリジナル商品は専用サイト「町のミシン工房」を開設し、大手インターネット通販を通じて販売している。他社にはないニッチ分野の商品を開発、これまでに「仕事になるエプロン LIETO」シリーズやキッチンパラソル、通園グッズなどのヒット商品を生み出してきた。今後は布だけでなく皮の使用も検討するなど素材の幅を広げ、多様なオリジナル商品を開発する。

雑貨小物専門の縫製工場
オリジナルの新商品も開発します



代表取締役
北次 孝得 さん

創業60年を超える縫製工場です。布を使った縫製品をサンプルから本生産まで一貫して行っており、バッグなどの服飾雑貨から、枕やマスクなど健康関連商品、防災用品やぬいぐるみなど多種多様な雑貨を自社オリジナル商品も含め製造しています。国内でも数少ない雑貨小物専門の縫製工場として、顧客の注文に応じて年間1000個以上のサンプルを作成し、新商品を市場に送り続けています。小ロット、多品種でも利益が出せる体制を目指して生産管理や5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に取り組み、プログラムミシンや自動裁断機など新鋭設備の導入も進めています。

主な事業内容

布を使った縫製品の製造・販売

主な取引先(納入先)

西川リビング(株)、(株)ワコール、
(株)学研教育みらい

【住 所】〒571-0033 大阪府門真市一番町15-7

【T E L】06-6908-1594

【F A X】06-6906-6943

【創 業】昭和30年 【設 立】昭和54年5月

【資本金】1,000万円 【従業員】40名

<http://www.nunomonokobo.co.jp>

